

小中一貫教育、CS・地学協働のさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.66 R6.9.30

幕別町教育委員会 学校教育推進員

令和6年度も前半の6か月が終了します。今年度も、各学園では小中一貫教育とコミュニティ・スクール(CS)、地域学校協働活動(地学協働)のさらなる充実を目指して取組が進められています。前半を振り返って、成果と課題を考えていきます。

今年度前半の成果は？

幕別町の小中一貫教育・CS、地学協働を考える

小中一貫教育では、今年度、生徒指導と特別支援教育の定期的な交流を重点とすることになり各学園で取組が進んできました。CSも学校運営協議会での熟議が定着し運営協議会の役割について理解が一層進み、地学協働活動との違いについても少しずつ理解が進んできました。

以下、小中一貫教育、CS、地域学校協働活動のそれぞれについて見ていきます。

小中一貫教育

①生徒指導交流、特別支援教育交流の取組進む

さつない学園では、昨年まで管理職だけで行っていた生徒指導交流を、生徒指導担当教諭を含めた形に拡充して月1回定例開催するほか、こころ部生活のきまり部会で学期に1回生徒指導交流をしています。特別支援教育についても学期に1回、管理職とコーディネーターが参加する交流会を開き、現状や進路についての情報共有をしています。

ちゅうるい学園でも、今年度から奇数月に小中の生徒指導担当、特別支援担当、管理職が集まり交流会を定期開催しています。今春小学校を卒業した中学校1年生の様子を中心に、小学校での生徒指導上の課題がどう変化しているか共有したり、中学校に進学する特別支援学級在籍、児童の学級での様子や学習の取組について交流したりしています。

両学園とも小中の指導形態の違いに気づいたり、進学後・進学前の子どもの情報を知ったりする貴重な機会となっていると言えます。他の学園でも、工夫を凝らして生徒指導と特別支援教育の交流をしています。限られた時間の中、どう効率的に進められるか検討を重ねているところもあります。生徒指導と特別支援教育の9年間の軸をしっかり定めていくことが今後も求められています。

②小中一貫教育の肝『つなぐ』と『そろえる』への取組続く

小中一貫教育では、小中の教育を「つなぐ」とことと学園内の教育活動を「そろえる」ことが極めて大事になります。各学園では、すっかり定着してきた中学校登校や乗入授業、小小連携の合同授業などの取組で各学校をつなぎ、〇〇スタンダードといった生活の決まりや学習スタイルを定めて学習活動をそろえる取組を行ってきました。

しかしながら、分離型の小中一貫校では、日常的にはそれぞれの学校として独立した教育活動が行われていますので、小中一貫校とは言っても一つの学校のように教育活動を統一するのは大変なことです。幕別町の各学園は令和元年度正式開園から丸5年をかけて、「つなぐ」と「そろえる」ことに取り組み、小中一貫校と名乗っても許される水準まで教育活動を進めてきましたが、これらの努力は今後も続いていくことになります。生徒指導交流、特別支援教育交流もこの一環として取り組まれ、これらの努力が小中一貫校としての成長を支えています。

義務教育学校への移行が決まっているまくべつ学園は、学園会議開校部会を設置して、現在この「つなぐ」「そろえる」を徹底するために時間をかけて検討しているところです。まくべつ学園小中教職員の奮闘が義務教育学校の基礎作りを支えています。



コミュニティ・スクール(CS)

① 熟議テーマがいっそう充実

各学園の運営協議会では、学園からの情報提供やミニ学習会等で CS と運営協議会の役割についての理解が進んできました。それに伴い、学校経営・学校運営に直結するテーマでの熟議が定着し内容が充実してきています。



糠内学園では、学園グランドデザインの改訂に向け、運営協議会委員が各学校の保護者から要望・意見を聞いたりアンケートを取ったりして次回熟議に備える取組をしています。

ちゅうるい学園でも判断する材料として学園評価等の数値が示され、それをもとに話し合いが行われています。

まくべつ学園では、「地域とともに子どもを育て、子どもとともに地域が活性化する」とのテーマのもと、具体的に何をするかまでの熟議を行っています。

地域の知恵や願いが学園・学校の経営・運営に反映される、実効性のある熟議が一層充実してきました。

② 活動サイクルがさらに充実 コロナ禍で乱れてしまった CS の活動サイクルが昨年度軌道に乗り、今年度はさらにそのサイクルが充実してきました。2・3月に行われる次年度経営方針の承認を主とする運営協議会に始まり、熟議がなされる中間の2回の運営協議会、そして活動を振り返る1月の運営協議会という流れがどの学園でも確立してきましたが、さらに今年度何を目標にするのか、どんな活動をするのかという見通しをもった取組が少しずつ増えてきています。運営協議会の役割や目的を繰り返し確認することで、具体的な取組につながる熟議がなされるようになってきています。運営協議会も確実に成長を続けていると感じます。

地学協働活動

① 教育委員会内に CS・地学協働推進委員会設置

教育委員会に CS・地学協働活動推進委員会が設置され、各学園の CS・地学協働活動を支援する組織が誕生しました。この推進委員会が中心となって教育委員会としての伴走機能を果たしていくことになります。統括コーディネーターも正式に位置づけられ、町全体の情報共有と各学園の実情に合わせた支援がよりきめ細かくできるようになりました。

② 地学協働活動の理解が進む

幕別町小中一貫教育・CS推進連絡会議の前段で、推進委員会からの報告があり、地学協働活動とCSの違いが説明されました。また、通信でも繰り返し解説記事が掲載されていることもあり徐々にではありますが、地学協働活動の理解が進んできていると思われます。このことが各学園の工夫された地学協働活動に表れてきています。

③ 地学協働活動の新しい動き

まくべつ学園では、運営協議会委員が町内会長に働きかけて地学協働あいさつ運動を成功させています。参加した地域の方々が子どもから元気をもったとの感想を寄せていますが、まさに「学校を核にした地域づくり」の取組になっています。学校支援ボランティアの組織化という方法だけでなく、町内会組織との連携で地学協働活動を進める好例だと考えます。さつない学園でも、まくべつ学園の取組から学び、地域あいさつ運動を10月末に実施することにしています。



一方、ちゅうるい学園では、地元の企業や団体が全面的にバックアップして学園のふるさと学習・キャリア教育を支えています。地学協働本部がなくても学校支援が充実している貴重な事例となっています。これらの取組をどう地域づくりにつなげていけるかを今後考えていきたいものです。

協働本部が昨年設立された糠内学園では、運営協議会の前段に協働本部の会合がもたれ、「まるわかりサポーターの図」を使って地学協働活動についての説明がされています。これからどんな具体的な活動につなげていくかじっくり取り組むことにしています。

先行する札内東学園ではチロッター（白人小）、きたよー（札北小）の学校サポーターを中心に活動が広がり、すっかり定着してきています。メンバーが少しずつ増え、それとともに運営上の課題も出てきていますが、じっくりと解決を図り一步一步前進しているところです。

各学園の条件や特長を生かして、焦らず、じっくりと、でも確実に！

各学園の前半の取組を見ていくと、今年も新しい取組や何かしらの改善がされており、少しずつでも確実に前進していることが見て取れます。前年踏襲の現状維持という学園は一つもありません。小中一貫教育の部会を再編したり生徒指導交流会のメンバーを拡大したり、運営協議会で熟議の内容を深めたり、地域と一緒に取組を始めたりと、各学園の条件と特長を生かして活動が進められています。幕別町小中一貫教育・CS推進連絡会議での情報交流、情報共有を生かして新たな取組をする、学び合う姿勢も見られます。

焦らず、じっくりと、でも確実に進めていくことによって、数年後には新たなステージに到達できます。そのことに確信をもって、今年度後半の取組をまた進めていきましょう。教育委員会も伴走機能を果たすべく取組を強めていきます。がんばりましょう。

情報提供「地域と学校の連携推進協議会」(オンライン)から

8月29日、オンラインの研修会「地域と学校の連携推進協議会」に参加しました。学んだことのいくつかをかいつまんで紹介します。

実践発表は①音更町の地域学校協働活動（音更スタイル）ふるさとおとふけ学、②釧路市立昭和小学校のCS、③標津地区地域コーディネーター私の志の3本でした。

音更町では教育委員会生涯学習部に地学連携担当課長を置き、学校教育部の教育推進員とともに各企業・団体と学校をつなぐ役割を果たして地学協働活動を進めています。政治教育・ふるさと教育・経済教育の3分野からなる「ふるさとおとふけ学」を、地学協働本部を置かず教育委員会の担当課で進めるのが特徴となっています。釧路の昭和小学校のCSでは、5時間授業にして全教職員が参加する運営協議会の熟議が目を引きました。教職員の理解を進め運営協議会委員とのつながりを深める取組だと感じました。標津町の地域コーディネーターは活動してうれしかったこと、悲しかったことを4コマ漫画にして報告。共感できました。

グループ協議では、新得町の地学協働担当の方、釧路市の地域コーディネーターの方と話しました。新得町は音更町と同じようなやり方で進めていること、釧路市には7人のコーディネーターが配置され、時間制限のある（週〇時間以内）時給制の会計年度職員として雇用され自分の都合に合わせて学校に行き支援活動をしていること、がわかりました。話題になったのはCSと地学協働の混同について。はっきり違いが判らないまま活動している人がほとんどで、地学協働の目標である地域づくりを意識している人は多くない、との状況がわかりました。他の地域の様子を知る貴重な機会となりました。

各学園実践交流会予定

まくべつ学園	11/29(金)	幕別中
糠内学園	8/22	救急救命講習 実施済み
さつない学園	11/26(火)	札内中
札内東学園	11/14(木)	札北小
ちゅうるい学園	隔年開催のため 今年度はなし (1月に合同研修会)	

小中一貫教育・CS関係 10月の動き

- 1日(金) さつない学園小小合同授業・乗入授業
(札南小会場) ※札内中数学教師乗入
- 8日(火) まくべつ学園小中教職員交流ミニバレー大会
まくべつ学園小中特別支援学級授業参観週間
(8日～18日全教職員対象)
- 9日(水) 札内東学園パークゴルフ体験(札東中：地域学習部)
- 11日(金) まくべつ学園一斉部会、三役会議
- 15日(火) 糠内学園定例経営会議
- 17日(木) 札内東学園学校運営協議会
- 24日(木) ちゅうるい学園職場体験(中2を小で受け入れ)
- 25日(金) ちゅうるい学園中学校登校(6年生)
札内東学園職場体験学習(札東中：地域学習部)
- 31日(木) さつない学園小中合同あいさつ運動
(兼地域あいさつ運動)
さつない学園小中生徒指導交流糠会
(日程未定) 糠内学園運営協議会(10月～11月)